

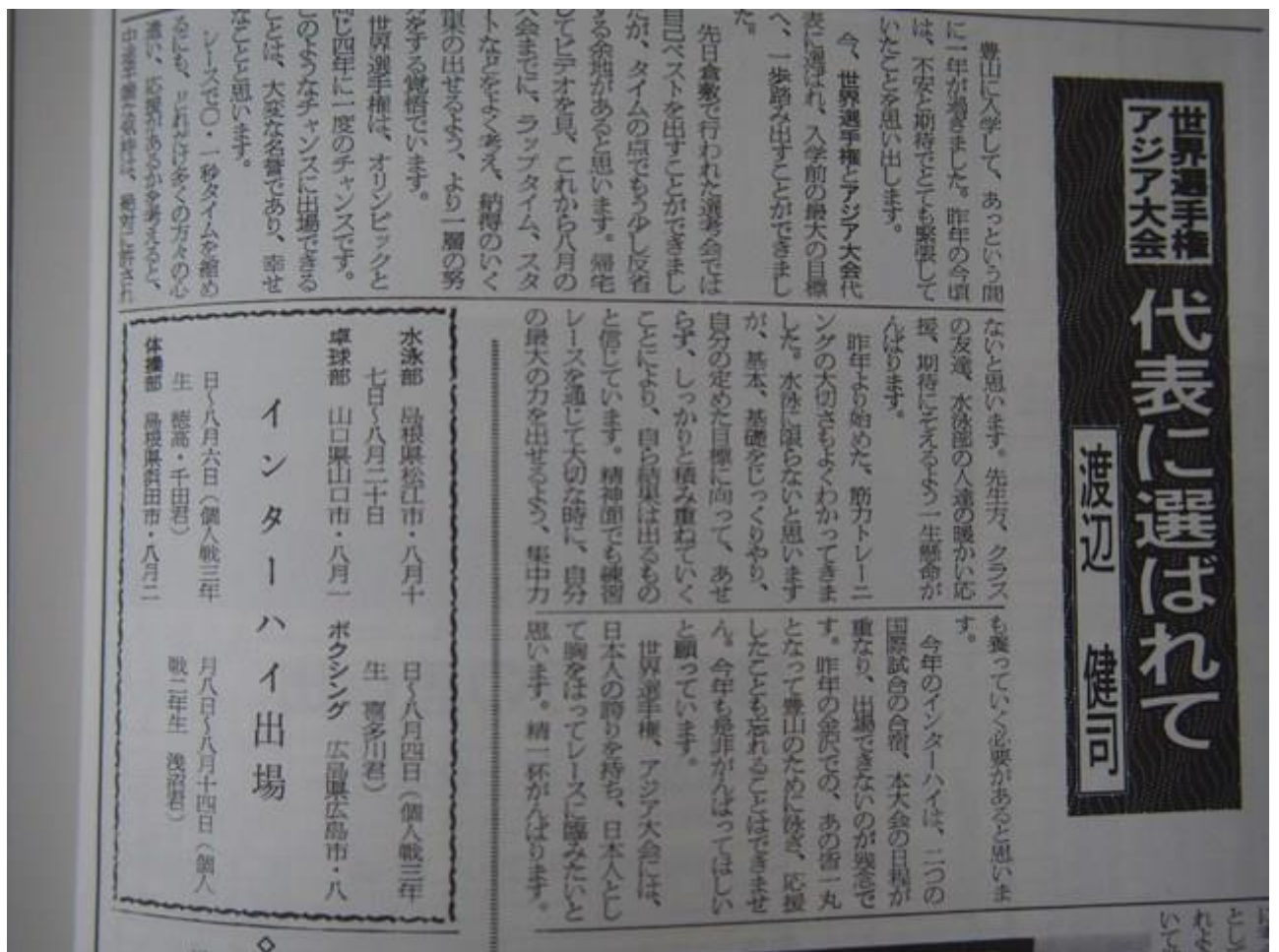
日大豊山水泳部の軌跡 9

昭和60(1985)年、中学時代からオリンピック選手として活躍した渡辺健司氏が入学し、高校1年生からインターハイで活躍した。

100m・200m 平泳ぎで優勝、リレーでも活躍し、男子総合第2位に貢献した。



高校2年生のときには日本選手権で優勝、世界選手権・アジア大会の代表選手として選出された。



昭和 61(1986)年のソウルで開かれたアジア大会では 200m 平泳ぎで優勝している。

その当時、男子チームコーチとして井上先生が帯同し、男子は 15 種目中、11 種目で優勝、日本記録も多数樹立された。



その後渡辺氏はオリンピック選手として、昭和 59(1984)年のロサンゼルス大会、昭和 63(1988)年ソウル大会に出場し、平成 4(1992)年バルセロナ大会では 200m 平泳ぎで第 7 位に入賞した。

競泳の日大豊山水泳部関係者でオリンピックに 3 度出場した選手は、渡辺氏だけである。

昭和 61(1986)年は、2 人のインターハイ優勝者を輩出した年である。

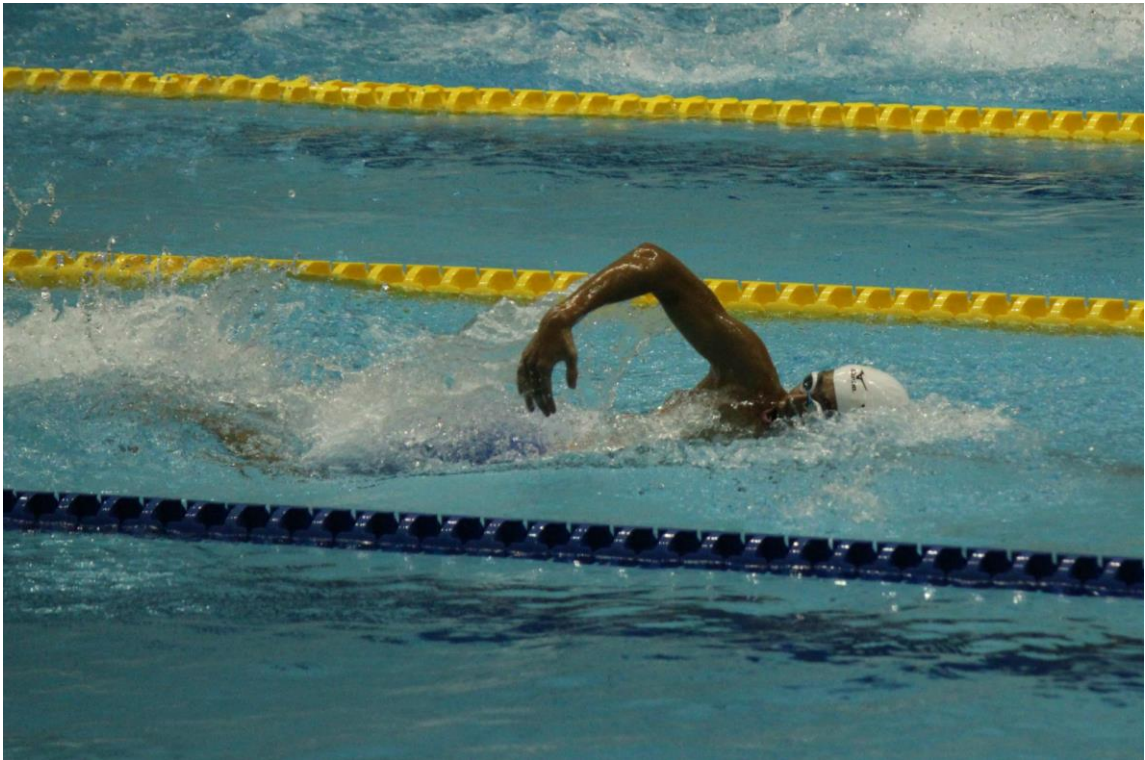
400m・1500m 自由形で優勝した遠藤昭一氏と 100m バタフライで優勝した磯英仁氏である。



磯氏のご子息である桜一郎君が平成 29(2017)年現在、日大豊山高校 1 年に在籍している。

桜一郎君は中学校 3 年生の時に全国中学校大会に 400m リレー選手として出場し、日大豊山中学の総合第 2 位に貢献した。

左から 2 番目が桜一郎君。





昭和 50 年代からスイミングクラブの活動が活発となり、昭和 58(1983)年から平成 7(1995)年まで近畿大学付属高校がインターハイ 13 連覇を続けた。

その間、日大豊山は学校水泳を継続し、総合第 2 位・第 3 位を守り続けていた。

平成元(1989)年には 100m バタフライで渡辺諭氏が優勝、野村英司氏が第 2 位、翌年には野村氏が 100m・200m バタフライで優勝した。



平成8(1996)年には総合第5位となったが、その悔しさは翌年からの三連覇につながることになる。